



むと!

おびにし わくわく通信

NO.89

2024.09.20

文責:荒木

学校訪問がありました

今日20日(金)は、熊本市教育委員会の学校訪問がありました。学校訪問は、市教委と学校現場が互いに共通認識を持って、よりよい学校教育を推進することを目的としています。今日は、全ての担任の授業や専科の先生たちの授業を参観されました。授業の他にも、私の方では、子供たちの様子や、学校での取り組みや、成果と課題についても意見交換を行いました。また、午後からは、市教委の担当と、授業した帯西の先生たちとZoomで授業に関する意見交換がなされ、帯西全体の授業力向上の一助となった、学校訪問となりました。



市教委の方からも「子供たちが自由な雰囲気の中にも、自分の意見をもってしっかりと表現したり発表したりしている。」「子供たち先生たちが素晴らしかった。学校全体で協働している雰囲気が伝わってくる。」という意見を頂き、帯西の「わくわく」する学校に向けて、これからも邁進しようと思えました。有意義な一日となりました。

●ひこうきぐも✈ vol.31

中国は物価が安いから旅行者にとって安心できるかと言えば答えは“NO”です。確かに食べ物や衣類などはとにかく安いのですが、厄介なことに中国には料金の内外格差が実施されているのです。内外格差というのは、例えば日本やアメリカなどからやってくる外国人旅行者に対しては、それなりの収入を前提とした別料金が設けられていることです。そのため、鉄道料金だと外国人は中国人の2倍の金額を支払わなくてはなりません。また、ホテルにしても、外国人の泊まる8割から半額の料金で、現地の方は、同じ部屋に泊まることができます。しかし一番厄介なのは外国人ということで、いろんな面で料金を高く取られてしまうことです。相場よりかなり高く取られてしまいますので、金額の交渉の場合は思い切って半値まで値切ってみるのも一つの手でした。その手を使って、万里の長城へ行くためのタクシーを貸切るため、交渉しました。8時間貸切で運転手さんの昼食含めて400元(約8000円)でした。身振り手振り、筆談、片言英語を総動員させて30分もかけて交渉しました。後で聞いた話によると、外国人は、500元は請求されるとのことなので、まずまずの成功と言えると思います。しかし、当時の中国人の平均月収が約200元だと考えると、複雑な心境でした。



誰も居ない万里の長城から見た景色

万里の長城は、八達嶺が有名ですが、ここは明治時代に作られた比較的新しい部分でレンガ張りになっており、モデル化されています。私は観光客よりも、もっと奥へ奥へと進みました(8時間も貸切切っていましたので)。ずっと奥は城壁というより、単に土の壁になっていて、所どころ崩れ落ちています。誰もいなく(中国で初めて誰もいないという感覚を味わった瞬間!)、ただ風の音と鳥の鳴き声だけが聞こえてきます。そして長城はどこまでも続いているのです。さすがに月から見える唯一の人工建造物だけのことはあります。中国の持つ歴史の重みを体全身で感じることができました。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木がバックパッカーとして旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは一昨年度からの累積です。